出かけてみました

憧れの屋久島、その自然の中で思う

姜晋如（会員）

7月中旬に夏休み中の長男と2人、念願の鹿児島・屋久島旅行を実行に移した。この15年間、環境ボランティアに従事しながら、屋久島にずっと憧れを抱いていた。初日、鹿児島を見物した後、いよいよ屋久島へ。

翌朝6時半に登山口に集合。準備運動をした後、30代の若いガイドさんの後について、トロッコの線路の上を歩きだした。

ところが30分ほど歩いたところでなんと右足の登山靴の底がはがれてしまった。さすがに経験豊富なガイドさんが、すぐさま滑りどめのカバーとテープで両足の靴をぐるぐると縛ってくれた。この登山靴は12年前にアメリカで買ったブランド品！しっかりした革製なのにゴムの劣化が進んで、肝心なところで文字通り私の足を引っ張った。

この先まだ10時間30分の山登りがある。でも、その大変さを和らげてくれたのは今まで見たことのない自然の美しさだった。見渡す限りの緑、それに山から流れてくる水が清らかでとてもおいしかった。前日、地元旅行社の方が500㎖のペットボトル1本で十分だと教えてくれた意味がここでよくわかった。

お昼に、ガイドさんがその水の味噌汁をご馳走してくれた。人生初めて飲んだ山水味噌汁！とてもおいしかった。

縄文杉に近づくにつれて、道はますます険しくなってきた。荷物は息子にまかせ、両手両足で登って、ようやく標高1700メートル以上にある縄文杉に到着した。思ったほど高くはなかったが、そのすさまじい幹がつるつる、しかもかなり太かった。

数千年もの年月を生きてきたと考えると感無量だった。保護のために、30メートル四方は木柵で囲まれていて、近づけない。

その後、すぐ下山の道に入ったが、壊れた米国製登山靴のせいで、ガイドさんのすぐ後ろにいたのに他の人たちに次々と追い越されて、とうとう200人余りの最後になり、ガイドさんをイライラさせてしまった。

11時間45分のツアーだった！親切なガイドさん、ツアーの皆さん、皆さんの足を引っ張ってしまい、ごめんなさい。

次の日に挑戦したのは白谷雲水峡の3時間コース。昨日より随分楽なはずだが、昨日のへとへとを思い出すと、不安だった。そんな不安は思ったよりも早く吹き飛んだ。少し登ると、目の前に苔に覆われた屋久杉やさまざまな形の切り株、そして森の奥から流れるせせらぎ。まるで中国の「桃源郷」のようだ。

ガイドさんによると、ある場所は「もののけ姫」の風景にそっくりだそうだ。倒れた大木は「もののけ姫」に出てくる大きな猪にそっくりで、その先端には猪の鼻のような穴が2つ空いていた。何とも巧みな大自然の作品ではないか！

山の中を歩いていたとき、ガイドさんは説明しながら時々、地面に落ちているプラスチックや包装紙といったゴミを拾っては、ポケットに入れていた。それを見て、大自然が人類に残してくれた宝のような環境は、屋久島の人々だけでなく、訪れる一人一人の観光客も大切にしなければいけないものだとつくづく思った。一人の環境ボランティアとして、これからもっともっと頑張らなければいけないと。

（表紙、表紙4の写真は筆者撮影）